

I C T街づくり推進会議 地域懇談会@長崎県対馬市 議事要旨

1. 日時

平成29年2月2日(木) 10:00~14:30

2. 場所

長崎県対馬市役所

3. 出席者

(1) I C T街づくり推進会議構成員

岡座長、村上構成員、牧野氏(石原構成員代理)

(2) 事業関係者

比田勝対馬市長、桐谷対馬市副市長、西村同市農林水産部長、黒岩同市農林しいたけ課長、舎利倉同市有害鳥獣対策室長、梅野同市有害鳥獣対策室係長、谷川同市猪鹿加工処理施設管理者、大浦対馬猟友会長、杉村対馬猟友会副会長、浜本同会書記・会計、内山同会理事、阿比留同会理事、吉野同会理事、白濱佐賀市農林水産部農業振興課係長、小柳同市同課主事

(3) 総務省

宮本九州総合通信局長、高地情報通信国際戦略局参事官

4. 議事

(1) 事業概要の説明やデモンストレーション

(2) 捕獲現場の視察

(3) 意見交換

5. 議事概要

(1) 事業概要の説明やデモンストレーション

舎利倉対馬市農林水産部農林しいたけ課有害鳥獣対策室長より、資料1に基づき、システム概要や事業内容について説明が行われるとともに、当該システムのデモンストレーションが行われた。また、白濱佐賀市農林水産部農業振興課係長より、資料2に基づき、システム概要や事業内容について説明が行われた。

(2) 捕獲現場の視察

対馬市の「センサーを活用した鳥獣被害対策」による有害鳥獣の捕獲現場の視察が行われた。

(3) 意見交換

主な発言は以下のとおり。

【村上構成員】

- 獣害対策という単なる鳥獣被害の軽減から、獣財（ジビエ活用）化によって、地域経済をどう活性化するかというひとまわり大きな取り組みとなっている点が評価できる。
- 獣財化にはまだ課題があると思うが、ぜひ評価をきちんと進めてほしい。現在も十分進めていると思うが、単にコストや売上の数字面だけでなく、資源化率の向上や、市の雰囲気の変化、観光振興への貢献度合いなども併せてみてほしい。

【牧野氏（石原構成員代理）】

- ジビエ活用において悩ましいのは、それをビジネスにするためには安定供給と新鮮さが必要ということ。今回のシステムのように、捕獲してすぐに加工処理できるようにする仕組みは非常に良い。
- 自治体毎にカスタムメイドでシステムを構築するとどうしてもコストが高いものになってしまうと思うが、今後はできるだけ汎用品を使ってなるべく安く、かつ規模を拡大できるようにするべき。

【比田勝対馬市長】

- ジビエのマーケットの確立には対馬市もかなり以前から取り組んでおり、「イベリコイノシシ」というブランドで売り出していたが、実際にはレストランにあまり使われずに途中で断念したことがある。現在は福岡市のアンテナショップやふるさと納税の返礼品でジビエ商品を展開している。
- ジビエのマーケットを作るためには、まず地元から理解を進めていく必要がある。対馬市では、学校給食やソーセージ等加工品でジビエを活用しており、また猟友会メンバーが地元の中学校に行き授業を行うなど普及啓発活動も積極的に行っている。

【大浦猟友会長、阿比留猟友会理事】

- 4年ほど前からイノシシの生肉や加工品の販売を始めており、ほとんど関東で展開している。更に、韓国の観光客向けに最大130人用の焼き肉システムもつくっており、年間1万人を超える実績がある。しかし、こういった取組を続けていてもまだまだ高値止まりで、スーパーマーケットなど

でも配備されて一般の人々に売れるように、より安くしていくことが最も重要。

- 実際に山に入るときには事前に現地調査を十二分にしているが、今後はドローンなどを活用して現地調査などしていきたい。

【岡座長】

- 全国的に深刻な問題である鳥獣被害への対策の一環として、獣財として有効活用しようとしていることに敬意を表したい。
- 鶏肉や豚肉も一般的には需給の関係で値段は決まっていくように、イノシシの肉もいずれは同じような流れになるものだと考えている。少しずつ全国に広がっていくにつれてマーケットに合った値段になっていく。
- ジビエのマーケットを作るためには安定供給が大切であり、そのためには、対馬市単独で行うのではなく、佐賀市などと連携した体制を構築すべきである。

以上